創刊から50号まで

かくれたあなたを　予想投票も

三十四年十月の「広報南国」の創刊を、「広報ナンコク」を通じ、広報の紙令も満四年を過ぎ、その間みなさんの協力とお叱かりにより、徐々に前進をつづけ創刊より五十号の号を重ねることになりました。

そこで、広報では五十号の発行を記念し、つぎのような記念行事を行ない、みなさんとともにそのよろこびをわかち合うことか企画してみました。ふるって応募して下さい。

問題

A　五十号までの広報を保存している、あなたを募ります。

B　「A」の応募者中、創刊から五十号までの保存者は、はたして何人いるでしょう。

※ハガキに、予想数、住所氏名、年令、職業を記入のこと。

締切り　一月十日

賞品

「A」　五十号全部保存している方には全員に記念品、別に抽せんで五人の方に特別記念品

五十号の一部が欠けて保存している方は、抽せんで十人に努力賞を差し上げます。

「B」

正解者十人に記念品、正解なきときは、実数に近い方に差し上げます。正解多数の場合は抽せんで決めます。

応募規定

「A」

☆保存している広報を市役所広報係、または支所へ、ご提出下さい。

☆住所、氏名、年令、職業を明記下さい。

☆市役所職員と、その家族は応募できません。

「B」

年末の窓口事務

印鑑証明や、戸籍謄抄、本などの窓口事務は、本庁では三十一日までの三日間、各支所ににおいても二日間執務することとなっている。

秋は美術で深む

愛好者増す市展

第三回の市美術展は、十一月十七日から三十四日まで後免、野田小学校で開らかれた。

ことしは会場のせまい関係もあってか、応募作品は前回よりやや少なく、総数百二十四点にとどまり、筒井広道（洋画、彫塑、工芸）、川島三郎（漫画）、磯部大池、光本三千萬（書道）、浜田豊繁（写真）の各審査員により百五点の入選を決め、そのうちから優秀作品十五点を選らび、また、児童、生徒の作品は、二千八百十七点の応募があり、入選六百五十八点を決めた。

一般の入選作にはそれぞれ審査評を付し、愛好者はもとより、市民の鑑賞の手引とする心くばりもあり、参観者も多く、おらが市展という気易いムードもあって、好評であった。

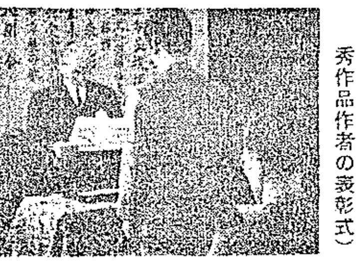
なお、優秀作品には二十四日表彰状と、記念品が渡された。

◇優秀賞▽

〔洋画〕＝原田治紀、岡村次、中橋辰子、橋詰正利、広瀬利一、田島巳、細川義彰

〔書道〕＝川内悠溪、弘末咲翠

〔写真〕＝田内文夫、土居正道、油本仁、水田智子、中沢幸雄



（写真は市展の一部と優秀作品作者の表彰式）

農の父に頌徳碑

中沢浪治氏を讃え

農の道に精魂を打込んで六十年、県下農民の先駆者として功績の多い中沢浪治氏の頌徳記念碑が、この程同氏出身の大曲（能間部落）に建立された。

碑の建立は、同部落長の濱川義斷氏が推進委員長となり、部落民、大篠農協の協力の下に、総工費三十五万円の予定基金を大きく上廻る浄財が寄せられ、去る十一月十一日に除幕式が行なわれた。

なお、碑文は高知学園教諭橋詰鶴齋氏の作

この地に生れ
この地に育ち
郷土の人と自然を愛し、
二期作のみのりをひろめて
人々のくらしをゆたかにし、
誠の道をこの地にひらき
郷土の人にその恵を与え
農ひとすじに生きぬいた
農民の父
中沢浪治翁に
かぎりない感謝を捧げて

と黒色花崗岩の美しい碑面に、白色の文字も鮮かに、迎ぎみる人々に深い感銘を与えている。

季節の農業

簿記をつけましょう

毎年十二月、一月になると、農業指導所でも簿記のことなどが話題となって、毎度記帳の効用についてさまざまの見解が披露され、如何に農業の経営が複雑で難しいものか考えさせられます。

私たち普及員が農家の方々と話をする時、よくひやかされることに「何ぞ儲ることはないかのう」「何を作ったら儲るぜよ」というのがあります。そんなことが解っていれば普及員はとうの昔に金持になっている筈ですが、残念ながら私などは年越も苦しい状態で、胡瓜を作ったら絶対間違無いとは云い切れない訳です。

農が作物を栽培する時、まず「何をどれ丈作ったら」「どう作ったら」と云うことから始まる訳ですが、現在の農業指導所の体勢では後者の「どう作ったら」ということの相談相手しかできないのが現状で、「何をどれ丈作ったら」と云うことについては未開発の分野であります。現実では農家は鶏を五百羽飼うことを決め実行しなければなりません。農家がこのような決定をする時、その根拠となる数字は、見たり聞いたりした相当に曖昧な資料により計画する場合が多く、勘に頼る他ない訳です。これが勘に頼るのでなく確実な資料に基いて計画できる体勢が必要で、その基本である成績を集めることから始めなければならない訳です。勿論農業経営を実行するには当然土地とか機械設備を利用して最高の利益を挙げなければならない訳ですから、当然これら土地設備は能率を考えたものでなければなりません。

最初に書きました「何をどれ丈作ったら」良いかと云うこと、つまり経営設計技術については、現在では非常に進歩しており、標準法、直接比較法、試算計画法、線型計画法など色々考え出されています。

このうち最も一般化された線型計画法についてみると農家が胡瓜と水稲を栽培したいと考えた時、一体二番を栽培して胡瓜二百坪栽培すべきか、二番稲を止めて胡瓜四百坪栽培すべきかはその農家の労働力、資金、土地など色々の条件で異る訳で、これら制限となる条件の下で利益が最高となる組合せが自動的に計算され、その時の利益、必要な労働力、資金などが計算されるよう仕組まれています。しかしながら実際にこの線型計画法を採用するとした場合、胡瓜が何人労働力を要し、資金はいくら必要で、収益がいくら挙がるかが明確に判っている必要があります。私たちはこれを技術係数と云っています。

私たち普及員が農家の方々に簿記の記帳をお願いする目的は、農家の経営状態を知り、それを検討分析することにより経営改善をお手伝いすることにありますが、前に述べました技術係数を明確に知り経営設計に用ることも大きな目標となっています。

私たちが簿記記帳を云々する時、必ずと云ってよい程自計式とか、中央会発行の簿記が出て来ますが、簿記は必ずしも自計式の必要はなく、記帳集計の簡単なもので目的に応じたもので結構だと思っています。至極簡単な図解メモ式でも目的によっては充分役立ちますので是非記帳し、その結果は必ず経営改善に利用出来るようお考え下さい。

十億円を上げる！

市内の野菜園芸

市内の野菜園芸は、本年は寒波と長雨のため被害額一億四千万円に達したといわれるが、総売り上げは七億円の見込みで、現金収入の貫録をくずしていない。

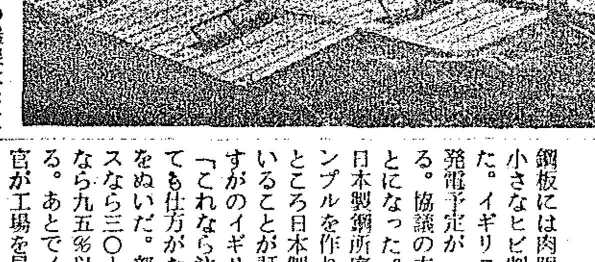
こうした点から考えて園芸農家の意欲はすざましく、市園芸連の見込みによると作付け面積は本年の約百八十四町歩を、二割りていど上回わりそうだ。

それとともに、総売り上げは、十億円の大台が見込まれており、園芸農家でも気象的な被害さえなければ一と自信を持ち、このところ肥培と管理に努めている。

全面積のうち加温面積は半分に迫まりつつあるといわれ、従来燃料はマキであったがコークスに移り、最近は重油が幅をきかしている。

このため燃料費が相当安くなり、労力も少なくてよいという。

なお十市が主体であったハウス園芸は、しだいに三和、前浜の周辺地区へ伸び目下北上中とあって、発展は果てることがない様想を呈している。



（右）ハウスの屋根はさまざま（上）どこまでも続くビニールハウス（下）ハウス内の熱源は、中央左よりのボイラーから送られる

生活と電気

明るい町や村を〃

防犯街路灯をつけましょう

わたしたちの町や村を、もっと明るく安全なところにするため、防犯灯・街路灯を積極的にふやそうという運動がすすめられています。特に高知県は、街路照明が低調だといわれ、その中でも我々の香長地区は、最も暗い地域となっております。（図表参考）

四国電力では明るい町づくりのため、工事費の割引や其他の便宜をはかっておりますから、お気軽にお取付けいただいて、犯罪や事故のないたのしい私たちの町をつくりましょう。くわしくは、最寄りの四国電力事業所や取次店へお問い合せ下さい。

街路灯取付工事費の割引額

定額電灯	1灯につき	300（円）
従量〃	1基につき	200
水銀灯（1基につき）	100W以上	600
	300W〃	1,200
	400W〃	1,500

定額街路灯普及状況

（38、3）

全国の100軒当り街路灯数

北陸	15.5	関西	8.3
北海道	14.6	中国	7.4
関東	14.1	四国	7.2
東北	11.5	九州	7.1
中部	9.0		

四国四県100軒当り灯数

愛媛	徳島	高知	香川
8.0	7.4	6.6	6.1

高知県内地域別（100軒当り灯数）

高知	安芸	須崎	中村	山田
7.3	6.9	6.3	6.3	5.4

電気暖房　器具の役割

冬の生活に欠かせない暖房には、マキや木炭、石油、ガス、電気等のエネルギー利用があり、この中の電気が他のものよりすぐれている点について申し上げますと、その取扱いは簡単で衛生的であり、自動温度調節装置によって安全が守られているという特長が挙げられます。

電気暖房は維持費が高いとよくいわれますが、上手に使えば安くつくことさえあります。電気アンカの場合は、風邪をひいて寒けがするようなとき、湯タンポ代りとして手っとり早く使えますから、家庭常備薬のウエイトでも考えていただけるわけです。

科学

イギリスを驚かした

日本の製鉄技術

昭和三十二年東海村の原子力発電用にイギリスよりコールダーホール型の原子炉を輸入し据付けることになった。原子炉の心臓部に入れる圧力容器の鋼板も同国から輸入された。厚さ十センチもあるマンガン鋼である。運転中は放射能にさらされ、二百六十度、十四・七気圧の高圧に耐へ、三十年位の寿命が必要である。ところがこの鋼板には肉眼では見えない小さなヒビ割れが入っていた。イギリスに注文すれば発電予定が一年近くも遅れる。協議の末日本で作ることになった。

日本製鋼所室蘭製作所でサンプルを作り試験比較したところ日本製が数段優れていることが証明された。さすがのイギリスの検査官も「これなら注文を取消されても仕方がない」とかぶとをぬいだ。部止りがイギリスなら三〇－三五%日本製なら九五%以上の成績である。あとでイギリスの検査官が工場を見て「イギリスにもこれだけの工場はない」と絶賛したそうだ。日本の技術も世界水準である。